

## 第7回 奈良女子大学

# オリンピック・公開シンポジウム

# オリンピックと震災復興



写真:GYRO PHOTOGRAPHY/アフロイメージマート

**日時** 2019年11月30日(土)  
13時～15時30分

**会場** 奈良女子大学 G棟201教室

## シンポジスト

**山下祐介** (首都大学東京教授)  
「原発復興オリンピック  
——なぜ相反するものが一つになるのか?」

**石坂友司** (奈良女子大学准教授)  
「オリンピックに託された震災復興とは何か」

**内山田康** (筑波大学教授)  
「原子力カマシーンとオリンピックの異なる場所性と時間性」

コーディネーター 井上洋一 (奈良女子大学教授)

主催 奈良女子大学生活環境学部心身健康学科スポーツ健康科学コース

入場無料/事前申込不要

## シンポジウム開催の趣旨

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催にあたって、このムーブメントがどのように歴史的・社会的に継承されてきたのか、そしてそこに東京、日本がどのような意義を新たに書き込むことができるのかを検討することが重要である。

第7回目となる奈良女子大学・オリンピックシンポジウムは、大会理念の重要な核となっている「震災復興」について議論する。2011年、東日本大震災が日本を襲った。福島第一原発の事故が誘発される中、大会招致に向けて掲げられたのが「復興オリンピック」というスローガンだった。開催が決まった後も、オリンピックと復興がどのように関係するのか種々議論が続けられている。例えば、復興そのものを阻害するという視点、復興が成し遂げられていない中での大会開催の是非、「スポーツのチカラ」に関する主張や被災地を巻き込んだ競技開催の方法論などである。そもそも復興とはどのような状況を指している言葉なのだろうか。開催を直前に控えて、本シンポジウムでは、オリンピックと震災復興の関係性を今一度議論したい。

## アクセス

近鉄奈良駅西側改札、右手出口より徒歩5分。  
南門、または正門よりお入りください。  
お車での来学はできません。



## 登壇者

### シンポジスト

#### 山下祐介（首都大学東京教授）

『「復興」が奪う地域の未来』（2017, 岩波書店）

『人間なき復興——原発避難と国民の「不理解」をめぐって』（山下祐介・市村高志・佐藤彰彦, 2013, 明石書店）

#### 石坂友司（奈良女子大学准教授）

『現代オリンピックの発展と危機 1940-2020——二度目の東京を目指すもの』（2018, 人文書院）

『一九六四年の東京オリンピックは何を生んだのか』（石坂友司・松林秀樹編, 2018, 青弓社）

#### 内山田康（筑波大学教授）

『原子力の人類学——フクシマ、ラ・アーグ、セラフィールド』（2019, 青土社）

『3.11の問い——その場所と時間』（2013, 『歴史人類』41: 121-137）

### コーディネーター

#### 井上洋一（奈良女子大学教授）

『〈ニッポン〉のオリンピック——日本はオリムピズムとどう向き合ってきたのか』（小路田泰直・井上洋一・石坂友司編, 2018, 青弓社）

『スポーツイベントの開催と環境保全』（菅原哲朗他監修, 2017, 『スポーツの法律相談』青林書院, 328）

### お問い合わせ先

奈良女子大学スポーツ健康科学コース 石坂友司 E-mail: yishizaka@cc.nara-wu.ac.jp / TEL/FAX: 0742-20-3347